

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	親子通園・くれよん		
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 17日 ～ 令和7年 12月 5日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	73	(回答者数) 46
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 17日 ～ 令和7年 12月 5日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・こども一人ひとりの特性や発達段階を踏まえた個別支援計画を作成し、支援を行っていること	・児童発達支援計画に基づき、支援のねらいを意識した療育を実施していること	・支援計画や支援内容について、専門性や根拠がより分かりやすく伝わるよう、説明方法や資料の工夫を行う
2	・日常的な関わりや定期的な面談を通して、こどもの成長や変化に気づき、保護者と共有していること	・定期的な面談や発達検査の機会を通じて、こどもの状況や課題を保護者に説明していること	・支援方法について、取組内容や目的が明確に伝わるよう整理・周知を行う
3	・多職種が在籍しており、連携を図りながらそれぞれの専門性を活かした支援を行っていること	・日々の情報共有やケース会を通して、職員間で意見交換を行い、一貫性のある関わりにつなげていること	・定期的な研修等を実施し、職員一人ひとりの資質向上を図り、こどもにとってより良い支援を行う

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・支援内容や児童発達支援計画、専門的な視点・根拠について、保護者に十分伝わっていない場面があること	・専門的な支援を実施していても、その目的やねらい、支援と発達評価とのつながりについて、説明の機会や方法が十分でなかったこと	・児童発達支援計画や支援内容について、専門性や支援の根拠が分かりやすく伝わる説明方法や資料の工夫を行う
2	・家族支援や地域支援、移行支援について、取組内容や位置づけが保護者に分かりにくいと感じられていること	・家族支援や移行支援を日常的な支援の中で行っているものの、それらを体系的に整理し、明確に示せていなかったこと	・家族支援・地域支援・移行支援の取組を整理し、保護者に対して目的や内容を明確に伝える機会を設ける
3	・相談や情報共有において、保護者からの働きかけが必要となる場面があり、双方向性のやり取りに課題が認められたこと	・日々の業務の中で、連絡や相談対応が個々の職員の対応に委ねられ、統一したルールや発信方法が十分に共有されていなかったこと	・相談や情報共有について、事業所から積極的に声かけを行い、保護者が相談しやすい体制づくりを進める